

令和3年9月16日(木)16:45～18:15

第一回こども政策の推進に係る有識者会議

# 子どもの声からはじめよう



川瀬 信一

里親家庭、児童自立支援施設、児童養護施設を経験。

千葉県生実学校 分教室 社会科教諭

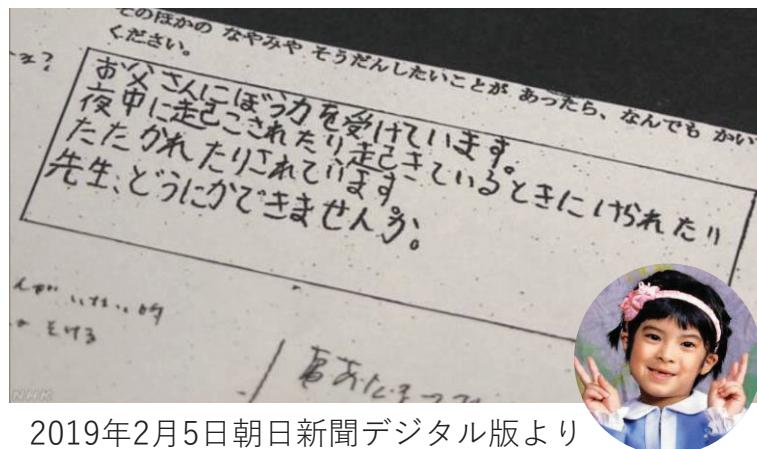
一般社団法人 子どもの声からはじめよう代表理事

厚生労働省子どもの権利擁護に関するWT構成員

# 届かなかった声、救えなかつた命。

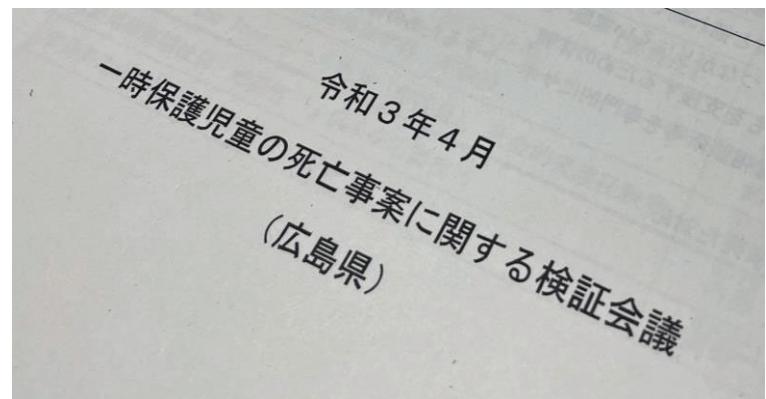
## 野田小4女児虐待事件(2019年)

- ・学校で行われた「いじめに関するアンケート」で、父親から虐待を受けていることを告白。
- ・保護された児童相談所では「お父さんが怖いから家に帰りたくない」と伝える。
- ・親族方へ移った2か月後、父親が家に連れ帰る。その後虐待がエスカレートし、亡くなった。



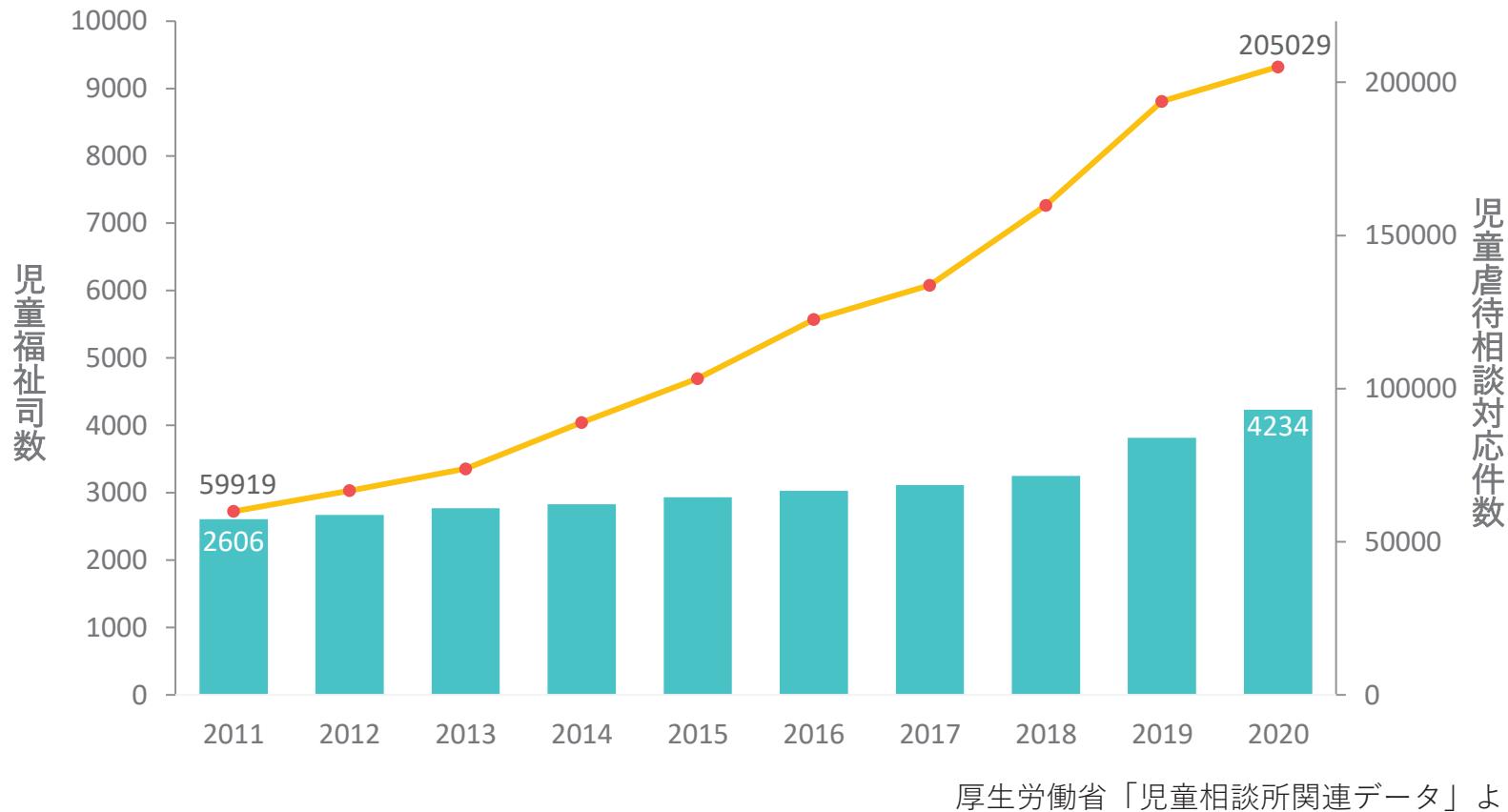
## 広島保護児童自死事案(2020年)

- ・「母と離れたくない」と訴えながら、一時保護により母と分離された生活を余儀なくされた。
- ・保護されてから亡くなるまでの約半年間、母親との面会を繰り返し希望していた。しかし、面会は事実上制限されていた。
- ・一時保護委託先の児童養護施設で亡くなった。



広島県「児童死亡事案に関する検証報告書」

# 増える虐待対応、追いつかぬ体制整備。



厚生労働省「児童相談所関連データ」より

児童福祉司 1人あたりの対応件数が増加 (48.4/人)  
子ども一人ひとりの声を丁寧に聴くことは困難

# なぜ声を上げることは難しいのか

親が離婚していて、それ以前の過去のことを、教えてもらえない。

里親のことを相談したら、出ていけと言われるのではないか。相談しにくい。

いじめのアンケートに嫌だったことを書いた。けれど、何も変わらなかった。



担当の児童福祉司に意見を聽かれたことはほとんどない。毎年人が変わる。

親のことを相談したら、親に伝わり怒鳴られた。それから相談していない。

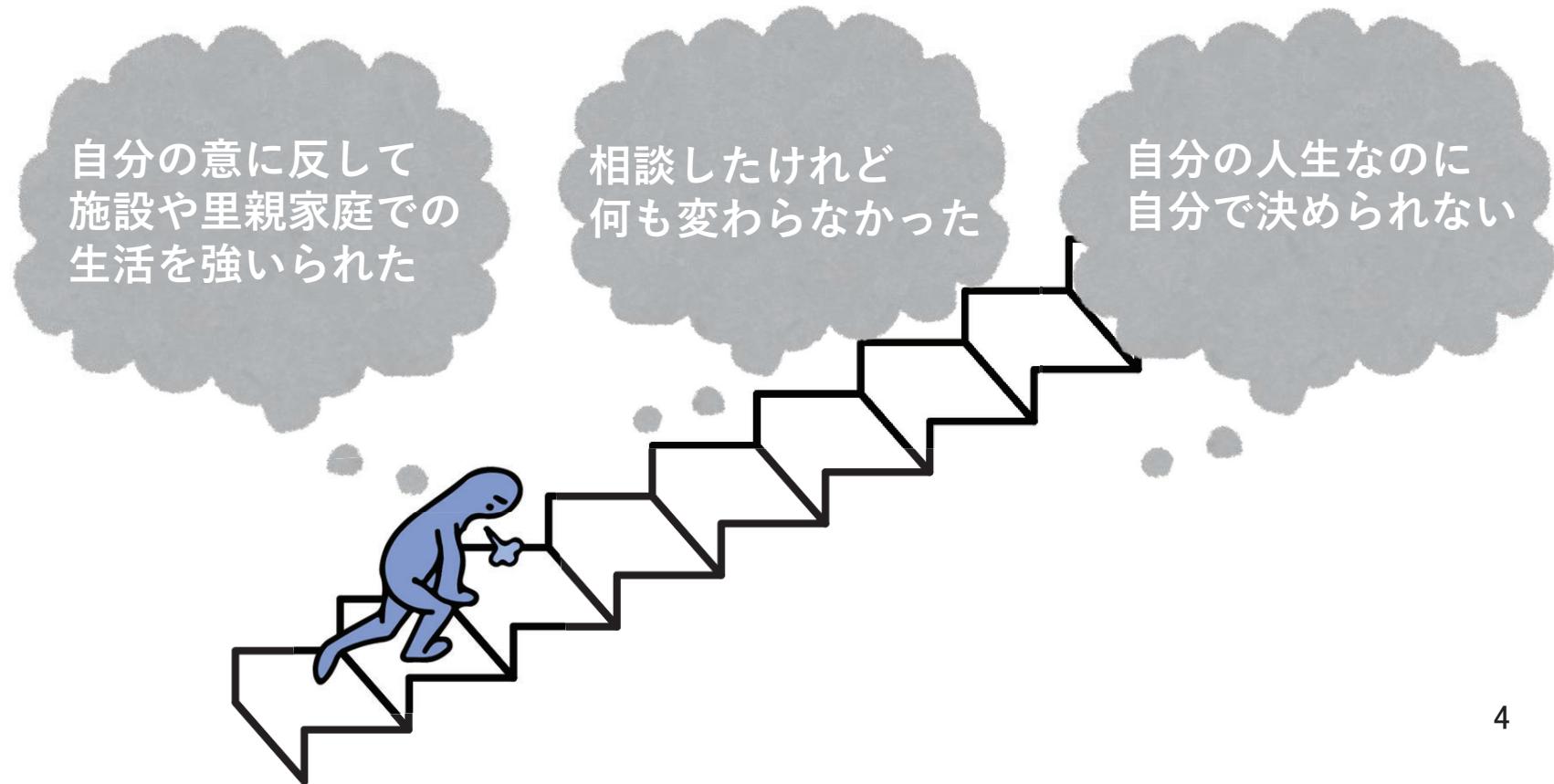
職員は他の子の対応で忙しい。迷惑をかけないよう意見はなるべく言わない。

厚生労働省（2021）  
子どもの権利擁護に関するワーキングチーム「とりまとめ」

# 社会的養護を離れてからも続く困難

感情や思考が抑圧された経験は、その後に深刻な影響を与える。

- ・家族との関係回復や将来の夢を「あきらめた」経験の深刻さ。
- ・直面している困難が理解されないことによる孤立感・孤独感。
- ・自分が悪いと思い続けてきた。だから「助けて」と言えない。



# 子どもの声を聴く子どもアドボカシー

子どもアドボカシー=子どものマイク

アドボカシーは独自のサービスであり、  
他のどんな子どもと大人の関係ともなっている。  
アドボケイトは**子どもの声**である。

(Department of health=2009)



問題を見つけ解決するために、  
子どもの意見が考慮されるために、  
子どもたちと一緒に行動を起こせるようになるために、  
個人または集団的な**子どもの声を持ち上げる**ために、アドボカシーを行う。

(カナダ・オンタリオ州アドボカシー事務所)

# 子どもが望むアドボカシー

こんな人に聞いてほしい！

怒らない人

優しい人

同性がいい

同じような環境で育った人

最後まで話を聴いてくれる

秘密を守ってくれる人

ゆっくり聴いてくれる人

明るすぎず暗すぎない人

こんな人には言いたくない

怖そうな人

「〇〇したら」という人

施設のことを知らない人

自分の意見を押し付ける人

話したことを人に言う人

何度も聞き返す人

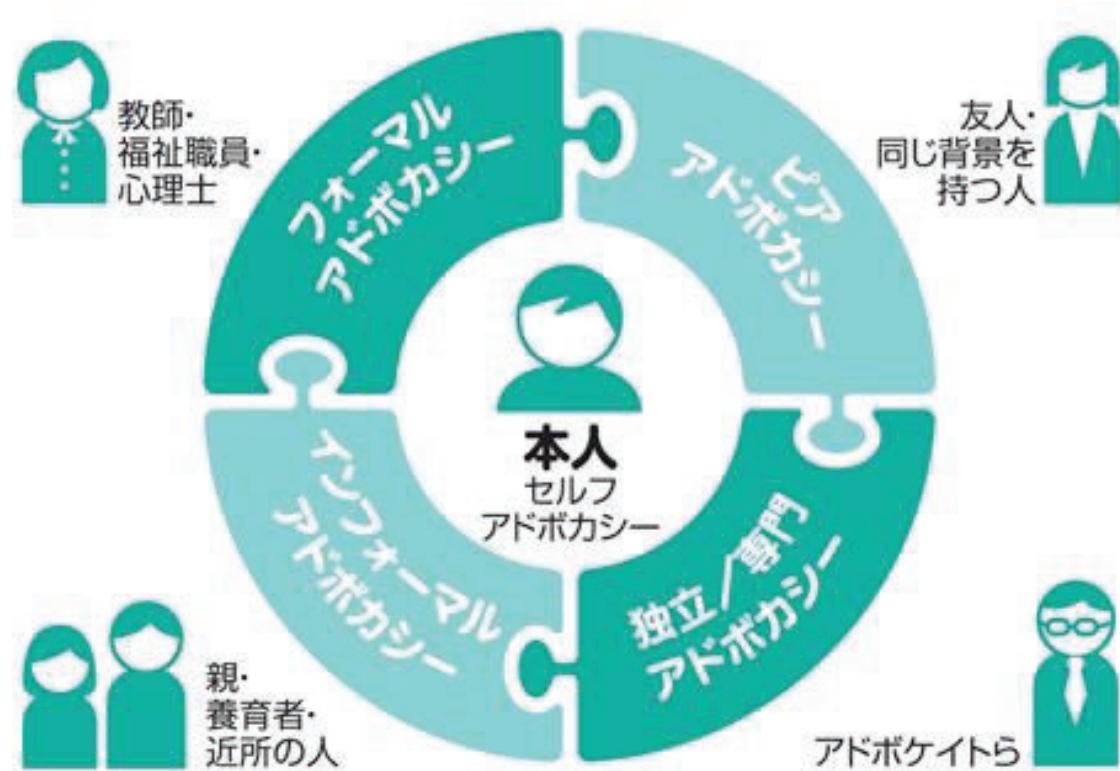
意見が変わる人

ころころ代わる人

Children's Views & Voices 「子どもの声聴かせてワークショップ」

子どものパートナーになるために大切なことは、  
子ども自身が教えてくれている。

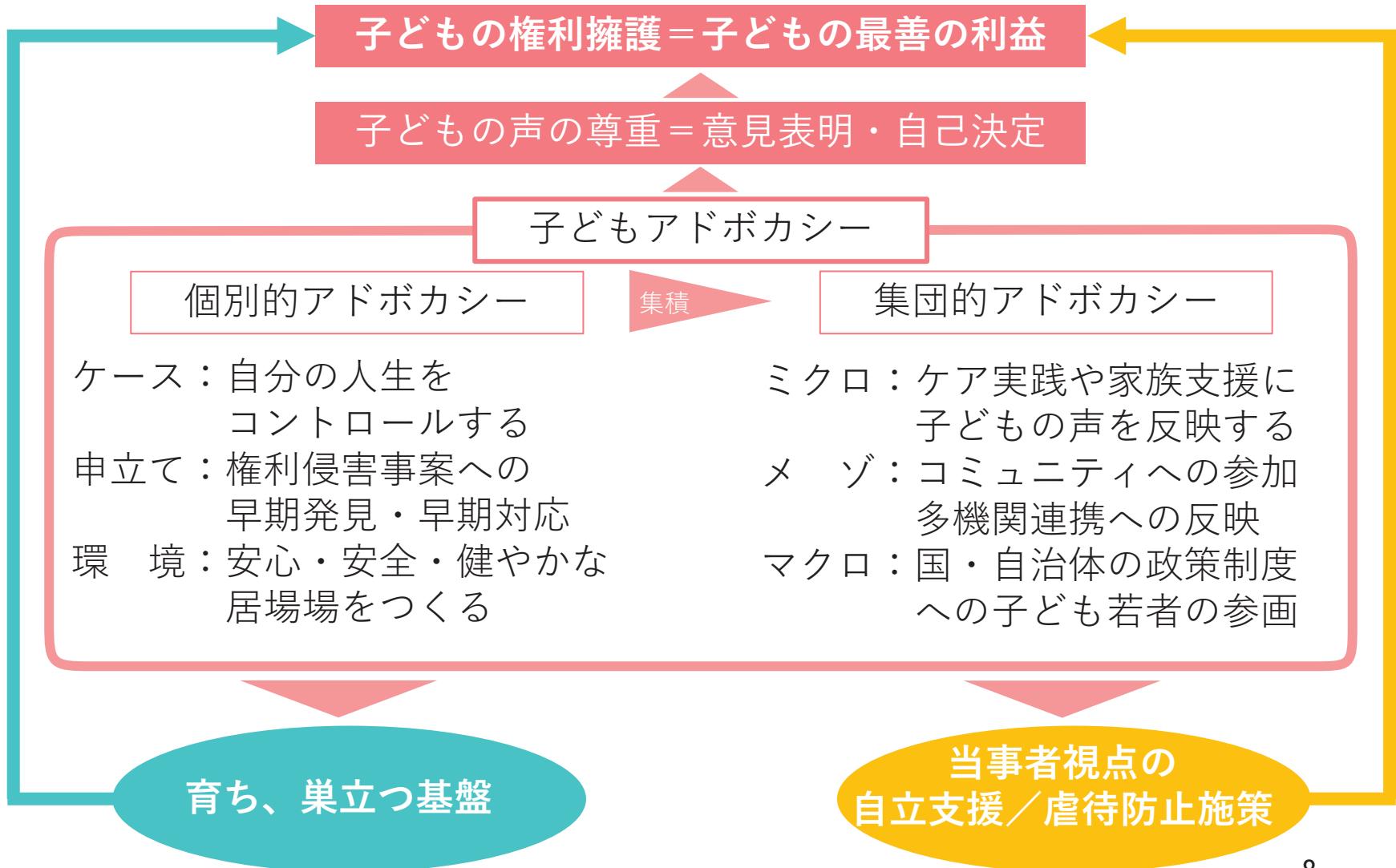
# 子どもをまんなかにみんなで声を聴く



朝日新聞2019年9月8日「子どもアドボカシーを考える」

異なる立場が相補的に子どもの声を聴くことが大切

# 子ども権利擁護の始点に子どもの声を



# 子どもの声からはじめよう

Vision 子どもの声が尊重される社会を実現する

2018



カナダ・オンタリオ州の  
アドボカシー実践に学ぶ  
学習会+政策提言発表会  
(全8回、延べ200人参加)

2019



イギリスJane Dalrymple氏招聘  
シンポジウム(約160名参加)  
アドボケイト養成講座  
(前後期、延べ90名参加)

# 子どもの声からはじめようの取り組み

## 児童相談所一時保護施設における訪問アドボカシー実践

- ・令和3年6月～
- ・東京都特別区児童相談所の一時保護施設
- ・70時間の養成研修を受けたアドボケイト7名が週1回定期的に訪問
- ・遊びを通じて信頼関係を築き、子どもからのリクエストにより話を聞く。  
申し出があれば、一時保護所の職員、児童福祉司・心理司、家族等への意見表明をサポートする。
- ・一時保護所の生活のこと、  
今後の生活のこと、学校や  
や学習のことなどについて
- ・子どもの権利について知り考える  
ワークショップも定期的に実施。



# 施設や里親家庭で生活した若者の声

## 現在困っていること・不安なこと

コロナで収入が減り、  
奨学金を払っていけるか  
不安です。

どんなに働いても  
アルバイトだから  
貰える給料が低いから、  
貯金も出来ないし、  
身体は疲れるし今後が不安。

周りに相談する人が少なく、  
誰を頼ればいいか分からない。  
頼れる人がいても、  
頼り方が分からない。

出産をするにあたって、  
子どもの頃に受けた態度を、  
自分の子どもにしてしまうのではないかとの不安があります。



三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（2020）  
「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が  
解除された者の実態把握に関する全国調査」

# 施設や里親家庭で生活した若者の声

## 今後利用したいサポートやサービス

1位 金銭面に関する支援(29.0%)

奨学金、生活費の給付、生活保護など



2位 住居や食料に関する支援(26.7%)

住宅の確保に活用できる給付金や食料の提供など



3位 心身の健康に関する支援(16.8%)

悩み事やメンタルヘルスについて相談できる  
電話やSNSなど



三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（2020）  
「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が  
解除された者の実態把握に関する全国調査」

# 当事者の声から制度をつくる

## Ethical Systems Reset Proposal (倫理的制度のリセット提案)

当事者の団体が、カナダ・オンタリオ州政府の児童福祉担当省と交渉を継続してきた。政府は年齢をベースとしたこれまでの制度にはもう戻らず、新しい制度開発を行うために当団体とパートナーシップを組むことに合意した。当事者がリードして、政府の児童福祉担当省とパートナーシップを組んで制度変更に関する協議をするのは初めて。



支援の終了は年齢ではなく  
「準備ができたか」で決める

Ontario changing child-welfare system to stop  
teens from aging out of care unprepared  
2021/3/2 CBC News

子どもの声に耳を傾けることは  
子どもを大切にする第一歩  
だから子どもの声からはじめよう